

クリエイティブ教育の高度化と国際化

TOKYOが世界に誇るクリエイティブシティに進化するためには、食、ファッション、メディアコンテンツ、デザインなどの分野で、教育の高度化と国際化を進めたい。国内外の才能を集め、関連産業に人材を供給するとともに、それぞれの分野のイノベーションをさらに活性化することが目的だ。

そのためには、国際的水準の高等教育を英語で行う専門教育機関(専門大学・大学院)の設立が有効だ。世界から一流の教員を集め、専門技術の教育に加えて国際ビジネスをリードできる人材の育成に注力する。例えばファッション分野の教育機関は、デザインや繊維・素材の専門家に加えて、ブランドマネジメント・店舗開発・サプライチェーンなど幅広いスキルを持つ経営人材を養成する。

既に競争力の高いデザイン分野でも、国内の主要美術大学と海外のデザインスクールとの提携プログラムの設立、海外有力校の学生を東京のデザインスタジオに招くインターンプログラムの設置、デザインシンキングを取り入れた英語版MBAプログラムの設置などに取り組みたい。

これらの教育機関を、食であればCIA(ニューヨークの夕食・ホスピタリティ専門大学)、ファッションであればパーソンズ美術大学(ニューヨーク)やセントマーチンズ(ロンドン芸術大学のアート・デザイン・ファッション部門)に並ぶ水準のものに育てたい。これらの一流校の分校を誘致し、教授陣の相互派遣と学生の交換留学を行う形でも良い。世界の一流プロフェッショナルを客員教員として積極的に起用することで、教育内容のレベルアップのみならず、世界と日本をつなぐビジネスの活性化も期待できる。

さらに、これらの教育機関が中心となって、クリエイティブ関連の国際的なアワードやカンファレンスを組成する。デザイン、都市計画・建築、食などが最有力の対象となる。海外の学者、クリエイターやブロガーを審査員や講演者として積極的に招致し、インフルエンサー層における日本のファンづくりを同時に狙う。

世界のクリエイティブな才能を、産業のグローバル化に活かせ

クリエイティブな才能が世界から集まり、世界と共創するクリエイティブシティTOKYO。その効果は実に幅広い。文化の発展、ファッションやコンテンツなど(狭義の)クリエイティブ産業の活性化、インバウンド観光の増加はもちろんだ。加えて、自動車や家電など、日本の中核産業の競争力向上への貢献も期待できる。世界市場で戦う上で、デザイン、ブランドなどソフトな価値を高めていくことが、これら産業の共通課題だからだ。

優れたデザイナーやクリエイティブディレクター、マーケターなどの才能を世界から集め、企業経営に活用していくことは、日本の産業がグローバル成長を進める上での重要テーマと言える。そしてクリエイティブな才能は、クリエイティブな街に集まるのである。

[このコラムについて](#)

NeXTOKYO Project

21世紀は都市間競争の時代である。日本最大の都市である東京が、世界で最も魅力的なグローバル都市TOKYOに進化することは、日本全体への大きな波及効果を持つ。このコラムでは、東京が「世界で最も魅力的なグローバル都市TOKYO」へと進化するための提言を行なっていく。

日経BP社

[日経ビジネスオンライン会員登録・メール配信](#) — [このサイトについて](#) — [サイトマップ](#) — [お問い合わせ](#) — [利用規約](#)

[日経BP社会社案内](#) — [個人情報について](#) — [アクセス履歴の利用について](#) — [著作権について](#) — [広告ガイド](#) — [ID統合について](#)

日経ビジネスオンライン SPECIALは、日経BP社経営情報広告部が企画・編集しているコンテンツです。

Copyright © 2006-2015 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.